

説教余滴 2017年9月17日『グーテンベルク』

8月6日付週報、余滴欄に「印刷・出版業界」と題して一文を草しました。あれは、印刷・出版に関して書きたいことの一部、始まりです。続きをお読みいただければ幸いです。

私達は学校時代に、印刷術はグーテンベルクに始まる、と教えられたのではないのでしょうか。私の記憶では、それ以前に印刷はどのようなものだったのか、示されませんでした。私の怠学、おサボリだったのでしょう。授業中に違うことを考え始めてしまいます。教師の授業計画、展開と、私が興味を持ち、考える筋道と食い違ったのでしょう。

後になり神学校の説教演習で教えられました。話し手は自分自身の理論で展開を図る。聞き手はその中で自分の興味のあることに関して、特に情緒的・心理的な事柄に関して独自に展開して行きます。こちらは論理的に右方向へ展開しようとしているのに、聞き手は同じことを情緒的に受け取り左方向へ進んでしまう。

要するに、自分の関心事を話していても聴き手が違う方向にそれていったりします、ということです。そらさないような展開、それることを想定した展開を心がけねばなりません。

ヨハネス・ゲンズフライシュ・ツール・ラーデン・ツム・グーテンベルク（ドイツ語: Johannes Gensfleisch zur Laden zum Gutenberg、1398年頃 - 1468年2月3日）は、ドイツ出身の金属加工職人、印刷業者である。印刷に改良を加えた**活版印刷技術**の発明者といわれ、広く知られています。

それまで、ヨーロッパの本の生産は、手書きによる「[書き写し](#)」か[木版印刷](#)で行われていました。

1439年頃、グーテンベルクはヨーロッパで初めて[活字](#)による印刷を行います。

活版印刷は、ヨーロッパでの本生産に一大変革を起こした。活版印刷具は急速にヨーロッパ各地に普及し、さらに世界中に広まって行きました。

印刷技術は[羅針盤](#)、[火薬](#)とともに「[ルネサンス](#)三大発明」の一つにあげられています。

